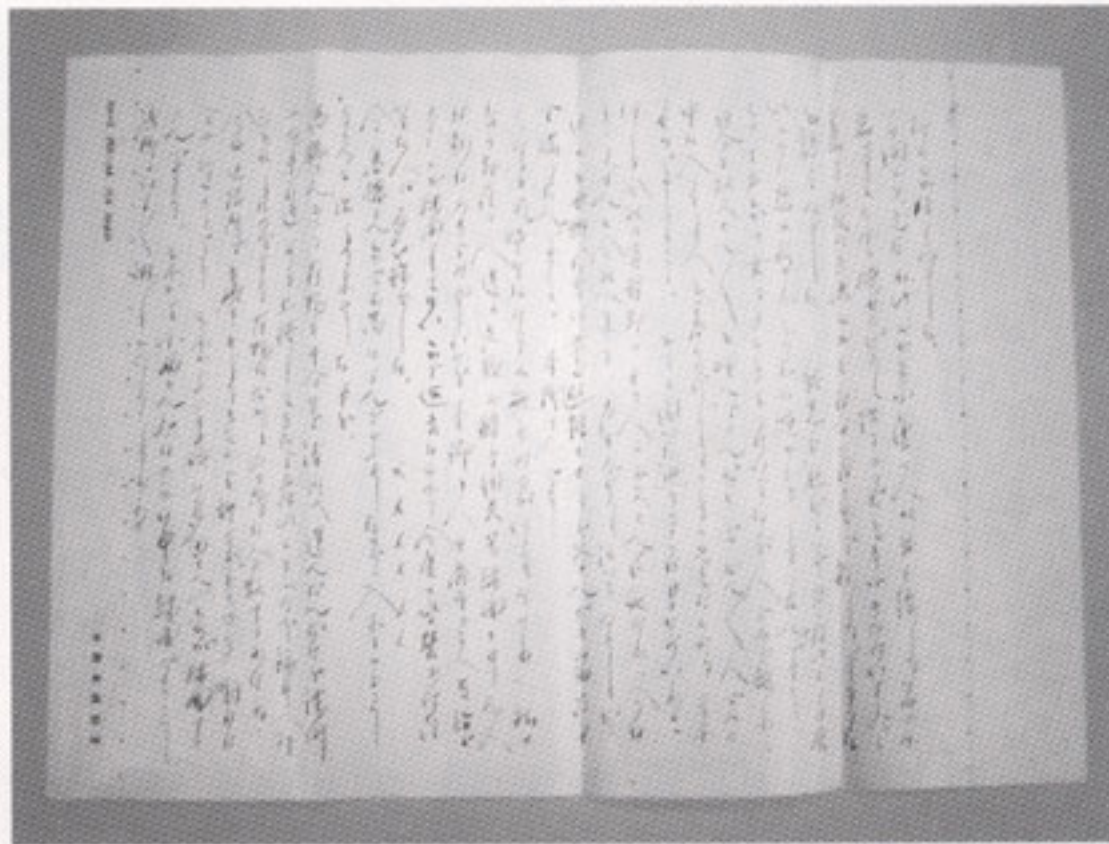


かたりべ 69

豊島区立郷土資料館だより



収蔵資料展「豊島の空襲」列品風景



萬代さんの手紙 全4枚のうちの2枚目。

「とても聞いた通りのことは書けないわ」

上の手紙は、現在、郷土資料館で開催中の収蔵資料展「豊島の空襲―戦時下の区民生活」で展示中のものです（澤田千鶴枝氏寄贈）。

書いたのは、当時、中野区から丸の内へ通勤していた萬代とみ子さん。あて先は、山形県（山形県）の上山温泉にいた姉の澤田きよしさん。澤田さんは、東京第二師範附属国民学校（当時池袋に所在）の集団疎開寮母をしていました。とみ子さんは、一九四五（昭和二〇）年三月一〇日の「東京大空襲」の被災者から聞いた話を書き送りました（三月一三日付け）。しかし、書いている途中で「とても聞いた通りのことは書けない」という気持ちになってしまいます。次に、二行目からの読み起こし文を掲げます。

この間も見えたおいとか言ふ店の人が目を傷して着のみ着のま、それも焼けこげて借りものだと言ふきたないオーバーを着て叔父の子供とかを自分の目の前で殺してしまったと語ってゐました。我先に逃げるので力の弱いものは強いのものに踏み殺されその上にやかれてしまったんですって、その十五とかの女の子と手をつないでたのが人ごみで離れ、自分を叔父さん〜と呼んでるんだけどだん〜人ごみの中に入ってしまったいその高くなるのぼしてる手も見えなくなり、それっきりですって……。とても聞いた通りのことは書けないわ。

何しろ会社の資材部の女の人もお父さんに死なれ、今日しょうぜんと会社へ来て、声をあげて泣いてゐました。自分と母親だけは早く避難させてお父さんだけ最後まで残ったんですって。本所の人です。（下略）

この日の空襲では一夜にして一〇万人以上の方が亡くなりました。東京はこれ以降も引き続いて空襲にみまわれ、敗戦までに豊島区では九百人以上の人が犠牲になりました。

（あおき）

第三回収蔵資料展

豊島の空襲―戦時下の区民生活― 好評開催中です

◆四月一三日の豊島区空襲◆

郷土資料館では現在、収蔵資料展「豊島の空襲―戦時下の区民生活―」を開催しています。豊島区が受けた空襲で最大のものは一九四五（昭和二〇）年四月一日のものなのです。

四月一三日の空襲について、東鴨のむかしを語り合う会による座談会（『座談会集 東鴨のむかし 第一集』収録）に次のようなお話が出ています。

◇一―時すぎでしょうか二階の窓からみていましたら東鴨の三丁目から四丁目、丁度庚申塚からとげぬき地藏の方を目がけて一直線に焼夷弾が落ちて燃え上がりました。見事と言っては不謹慎ですが、火炎が横になって走ると申しますか、東鴨の郵便局とかお地藏さまの辺りまで一気に燃え上がりました。ほとんど同時に小石川の方や池袋にも火の手が上がりました。（小林実さん）

◇一―時頃だったと思います。空襲警報の声ですぐ飛び起きて外へ出ました。その当時は警報が出てから三〇秒もあれば

外へ出られるように準備して有ったので

すが、それでも表の通りはもう炎の海で：（中村吉之襄さん）

◇四月一三日は、警報が出る前に東鴨の方はもう火の海でした。（瀬戸和男さん）空襲警報と同時に、あるいはその前か

らすでに「火の海」状態だった、と証言は伝えています。

『東京大空襲・戦災誌』第三巻に収録されている四月二三日付けの「警視庁消防部消防教務三三二二号」文書は、「十時五十分頃（空襲警報発令前）牛込区飯田橋付近、麹町区大手町付近に最初の火災発生続いて足立方面荒川方面豊島区東鴨一

二丁目付近に殆ど同時に発災続いて本郷曙町 豊島区要町と火災発生爾後二分乃至三分を間して逐次前記二十六区を数ふる広範囲に無数の火災発生空襲警報解除時に於ては火点の算定困難となり就中豊島荒川足立板橋滝野川方面は猛烈なる大火流の状況を呈したり」として、火災発生が空襲警報より先だったこと、短い時間に多数の火災が発生したことを伝え

ています。そして、「豊島区西東鴨二丁目より同区堀之内一帯は同一個所に三回に亘り空襲を受け居り独立火点無数瞬間的に大火流を形成し」、またたく間に「火の海」状態が生じたといっています。証言と記録とはびつたりと符合しています。

奥住・早乙女『東京を爆撃せよ―作戦任務報告書は語る』（三省堂）中のアメリカ軍の記録によると、この日、B29部隊がマリアナ基地を発進したのが午後四時二〇分から七時一七分、房総半島南部到着が一〇時四二分、初弾投下が一〇時五七分です。一方、日本側の記録では警戒警報発令が一〇時四四分、空襲警報発令が一―時〇分となっています。こうした記録が正確なものであれば、爆撃部隊が本土上空に入ってから警戒警報を出し、最初の爆撃がなされてから空襲警報を出したことになります。

ついでに言うと、米軍の記録では最終弾の投下は一四日二時三六分、日本側による空襲警報解除が二時二二分、警戒警報解除が二時五二分で、投弾が終わる一四分前に空襲警報が解除され、最終弾の投下の一六分後に警戒警報が解除されたことになります。

これは確認作業が不正確であったせいでしょうか。あるいは、担当者自身が早

く空襲が終わって欲しいという主観的な願望に囚われていたからかもしれません。もし、後者の要因があったとすれば、あるいは、発令の方も、できたら空襲はなければよいという思いが時期を遅らせたとということもないとは言いい切れません。いずれにしても、空襲警報からせいぜい三〇秒かそこらで「火の海」だったということは初弾投下から三、四分で大火流が発生したことになります。これでは、消火にあたる余裕はほとんどなかったでしょう。（あおき）

収蔵資料展では、空襲の激しさを示す被災品や焼け跡の写真、空襲を伝える手紙などが展示されています。



資料をとおして、異世代の交流が実現！

——地域史講座「博物館の資料を手にしてみよう」から、思ったこと、感じたこと

■実物の資料に触れる

見学者が展示中の資料を手で触れることは、資料がケースの中に入っているために、ふつうはできません。しかし、それを承知しながらも、「触ってみたい」と思う見学者は多いことでしょう。

そこで今回は、その欲求を少しでも満たすことができればと思い、収蔵庫に数ある資料のなかから印半纏しるしはんてんと和裁雛形わさいひながたを選び、思う存分触り、資料への理解を深めていただくということからこのような講座を開きました。

参加者数は、講座の性格を考えて二三名までとし、主に「広報としま」で募集しました。十一月三〇日、十二月七・一四日の三回、いずれも土曜日の午後二時から四時まで、会場は郷土資料館がある勤労福祉会館六階の会議室で実施しました。そこへ、衣裳ケース一箱に保管してある資料を運び、触れやすいように並べました。

印半纏は、特に職人・商人が使用していた藍染めの仕事着です。和裁雛形とは聞き慣れないものですが、裁縫の技術を

修得する際、実寸の着物を作る以前に縮尺を小さくして作るものです。この二種類の資料は、一九八四年の当館設立時から現在にいたるまで、区民の方から寄贈されてきたものです。破損の心配が少なく、手に取りやすい資料であることを考慮し、講座で使用することにしました。

講師（Ⅱ学芸員）は、印半纏・和裁雛形の教科書的な説明をするだけではなく、それらの元の所有者が資料館へ寄贈するときの気持ちや使用していたときのことを特に説明しました。また、どのように調査・整理しているかというふだんの作業についても、時間の限り話しました。

講師（Ⅱ学芸員）は、印半纏・和裁雛形の教科書的な説明をするだけではなく、それらの元の所有者が資料館へ寄贈するときの気持ちや使用していたときのことを特に説明しました。また、どのように調査・整理しているかというふだんの作業についても、時間の限り話しました。

■参加者が作る講座

今、日常生活で着物は遠い存在です。そのため、それを素材にした講座に応募があるのか。また、あればどのような方が気がかりでしたが、着物が好きな人や博物館にある資料（Ⅱ昔の古いもの）に触りたいとか講座の方法が面白そうだという人たちが集まりました。

集まった一〇名の方は次のとおりです。

- aさん：三〇代・男性・区内在勤
- bさん：六〇代・女性・区内在住
- cさん：六〇代・女性・区内在住
- dさん：五〇代・女性・区内在住
- eさん：六〇代・女性・区外在住
- fさん：二〇代・女性・区内学生
- gさん：二〇代・女性・区内学生
- hさん：二〇代・女性・区内学生
- iさん：二〇代・男性・区内学生
- jさん：二〇代・男性・区外学生

結局、講座は、親と子という世代の年齢構成になりました。

さて、どうやって講座を進めていくか……。しかし、すぐにその不安は消えました。子の世代にとって親の世代が持



袖を通した火消し装束を、畳紙たたみの上で折り畳む。このようにして、再び収蔵庫へしまう。

つ着物に関する経験や知識は、初めて聞くことや、興味深い話となりました。また、親の世代にとっては子の世代がいかに伝統的な着物について知らないことが多いかということを再認識すると同時に、見たこともない資料がどのようなものであるのか、彼らが解いてゆく創造力に驚くこともありました。

ときに談笑しながらの講座は、休み時間を忘れ、瞬く間に終わりました。この講座では、資料そのものを考察するということの他に収穫がありました。それは世代間の対話です。これからも、収蔵庫の資料がより身近な歴史としてご覧いただけるよう、このような「伝承の場」を作っていきたいと思います。（福岡）

セピア色の記憶

第4回

「開かずの踏切」の終焉しゅうえん

これらの写真は、ほぼ同じ位置から撮影した昭和初年と最近（平成一四年一月三十一日）のJR長崎道踏切付近の様子です。すでにおわかりのように、線路の上を交差しているのは、西武池袋線の高架橋です。また、地図に示した*印は撮影地点を、↓は撮影方向を示しています。

長崎道踏切は、JR池袋駅と目白駅のほぼ中間に位置する踏切で、明治三六（一九〇三）年の豊島線（山手線の前身）開通時に設置されたものです。また、現在山手線に残された二箇所の踏切のうちの

一つでもあります。踏切の西側に位置する長崎地域からは、幹線道路である目白通りではなく、“庶民の道”であった長崎道から長崎道踏切を通過して神田市場に蔬菜類を運んだ時代もあったということ、この地域の東西をつなぐ踏切として長年にわたり親しまれてきました。

しかしながら、当初、山手線と貨物線のみ運行が、昭和六〇（一九八五）年に埼京線が新宿まで延びると、過密ダイヤで運転される朝夕のラッシュ時には、“最大で五〇分間も閉まったまま”、あ

るいは“一時間で二分間しか開かない”という「開かずの踏切」として知られるようになり、利用者にとって不便な存在となってきました。また、周辺の飲食店が線路の反対側には出前をしてくれないという事態も起こり、今や地域住民にとってもありがたい踏切となっていない

地域からは、昭和六二年に「長崎道踏切に地下道を建設するよう要求する請願」が議会に提出されるなど、早期に立体横断施設を設置するよう関係機関に要望がなされてきましたが、諸事情によりこれまで実現しませんでした。ところが、自転車用スロープやエレベーターを備えた



踏切脇にある「長崎道踏切」の表示板



筆者から提案です。「開かずの踏切」終焉の日までに、記念に踏切を渡っておきませんか？ もちろん、何分間かは必ず待つので、時間に余裕がある時に…。

なお、長崎道踏切そばを交差する西武池袋線の煉瓦造の橋台は、大正四（一九一五）年に築造されたもので、貴重な近代土木遺産と言えます。こちらの方も老朽化が進んだため、昨年より約六年間の計画で、「山手線跨線橋改築工事」が進められています。

*本欄は、二〇〇三年一月六日付の「産経新聞」朝刊の記述を参照しました。

（秋山）

Q 豊島区内各地域の地名(町名)

の由来について教えてください。

(質問者 ひでき)

~~~~~

**A** 前回に引き続いて、地名(町名)

の由来についてお答えしましょう。

【雑司が谷】(ぞうしがや)

江戸時代の文政期(一八一八〜二九

に幕府によって編集された『新編武蔵

風土記稿』では、①法明寺(南池袋三

丁目にある日蓮宗寺院)の雑司料であ

ったため、②小日向金剛寺(文京区春

日二丁目にあった曹洞宗寺院)の雑司

料であったため、③元弘・建武期(一

三三三〜三七年)に朝廷の雑士を務め

た柳下氏・長島氏・戸張氏がこの地に

土着したため、という三つの説を紹介

しています。そして、「蔵主ヶ谷」、

「僧司ヶ谷」、「曹子ヶ谷」などまち

まちだった村名の書き方を、江戸幕府

の八代將軍徳川吉宗が「雑司ヶ谷」と

書くように指示したとしています。な

お、昭和四一年の住居表示実施の際、

「雑司ヶ谷」を現行の「雑司が谷」に

改めました。

【高田】(たかだ・たかた)

鎌倉・室町時代に平川(神田川)の流域

にあたる現豊島区高田地区、新宿区高田

・早稲田・落合地区、中野区上高田地区

などの一帯を指したと考えられる地名で

す。このあたりの高台地を高畑と呼んで

いたのが高田に転じたと言われ、「高台

地にある田」という意味であろうとする

地形説と、越前高田藩の御用屋敷が馬場

下のあたりにあり、馬場が御遊覧所とな

ったので高田村となったという説があり

ます。なお、現在の豊島区高田地区は、

江戸時代には豊島郡下高田村の一部に該

当していました。

【長崎】(ながさき)

鎌倉時代に執権北条氏の家臣である長崎

氏の領地であったためという説と、全国

の長崎という地名を調べると「水辺にあ

る岬状の土地」という共通点が見られ、

豊島区の長崎も谷端川に三方を囲まれた

岬状の土地であるところからつけられた

とする説があります。なお、現行の南長

崎は、長崎地区のなかでも南側に位置し

ていたことから、住居表示実施の際につ

けられた町名です。

【千川】(せんかわ)

昭和七年の豊島区成立時につけられた町

名で、町内を流れる千川上水にちなんで

います。千川上水は玉川上水の分水とし

て元禄九年(一六九六)に開設されまし

たが、現在は大部分が暗渠になっていま

す。

【千早】(ちはや)

長崎地区の耕地整理完了に伴って行われ

た町名・町区域変更により、昭和一四年

につけられた町名です。その由来につい

ては、町成立時に有志が集まり南北朝

の武将楠木正成の居城であった千早城に

ちなんで町名にしたという説と、近くを

流れる「千」川上水の流れが「早」いこ

とからついたという説がありますが、定

かではありません。

【高松】(たかまつ)

先の千早と同様に昭和一四年につけられ

た町名です。江戸時代の長崎村の小字で

あった高松から名づけられました。ただ

し、なぜ「高松」なのかについてはよく

わかりません。

【染井】(そめい)

この地に染井と呼ばれる泉があったこと

からつけられた地名とされ、江戸時代の元禄期(一六八八〜一七〇三年)には、染井村という独立した村として幕府から認識されていた時代もありました。豊島区が成立して以降、正式な町名として染井は用いられてきませんでした。都営染井霊園、染井通り、染井橋など、地域住民にとっては馴染み深い地名です。また、全国的には、桜の「ソメイヨシノ」発祥の地として知られています。(回答者 秋山)



今から10年前に撮影した染井通り 景観は日々変化している。

# 郷土資料館からのお知らせ

## ★収蔵資料展図録「豊島の空襲―戦時

下の区民生活」発刊のお知らせ

現在開催中の収蔵資料展の展示図録です。一昨年に発見された「都内戦災殉難者霊名簿」に関する解説や分析が掲載されているほか、戦時下で区民が空襲をどう受けとめてきたか、また、どのような記録が遺されてきたか、を写真とともに解説しています。ご来館のお帰りにぜひお買い求めください。

◆販売価格二〇〇円（A4判一六頁）

★地域史講座「わかる豊島区」（全一〇

回）開催のお知らせ

当館では、二〇〇三年度事業のひとつとして、地域史講座「わかる豊島区」を

今年五月から来年二月までの、原則とし

て各月最終土曜日に、月一回ペース全一

〇回シリーズで開催いたします。この講座は、豊島区の歴史・民俗・文化について、初心者を対象として各テーマに沿って、わかりやすく解説していくもので、講演、見学、さらにはフィールドワークと多彩な内容を盛り込んでいく予定です。各回の講師は、当館の学芸員が交替で務めます。

詳しい日程や申込み方法については、

三月二五日（火）発行の「広報としま」

に掲載予定ですので、興味をお持ちの読者各位は、お申込みのうえご参加方よろしくお願いいたします

## 区民のための 博物館用語の基礎知識

### ② キャプション（英 caption）

展示資料とともに置かれる簡単な説明文のこと。通常、資料名・年代・所蔵者・寸法・解説文などが記される。ワープロやパソコンが普及するまでは外注していた博物館もあったが、今ではこれらの機器を用いて手作りしている館も多い。ただし、解説文が長文になると、展示資料よりキャプションの方が大きくなってしまふ場合がある。

### ▽用例△

学芸員A「展示室左側の壁面、資料が少なく寂しくありません？」  
学芸員I「それじゃ、キャプションを拡大コピーして埋めちゃう？」



## 編集後記

暦のうえではすでに春を迎えましたが、もうしばらく寒い日が続くようです。この冬は二月になってからインフルエンザが大流行とか。最近、マスクをしている人を見て、この人はインフルエンザ？ それとも花粉症？ はたまた単なる寒さよけ？ と考えてしまうのは、編集子だけでしょうか？

収蔵資料展「豊島の空襲」は、おかげさまで多くの来館者を迎えています。また、展示関連事業の歴史講座「学徒勤労動員」も、好評のうちに終わることができました。展示の会期は三月三〇日（日）までですので、お早めにこ来館ください。

（あき）

かたりべ

No.69

2003年2月28日

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話 03-3980-2351